イヌの保定の仕方

集合注射に参加する心得



狂犬病予防集団接種の際に、飼い主がイヌを保定する為の参考例

保定(ほてい)とは

動物病院で診察や治療を受ける時、自宅で薬をつけたり、飲ませたりする時、お手入れする時などにイヌが暴れたり動かないようにする便利な抱き方です。

狂犬病予防集団接種会場には、イヌを保定出来る方が連れて行きましょう。

ポイント; 普段から保定をすることに馴れさせましょう。病院での予防注射や検査や採血時のみ保定をすると、イヌにとって嫌な記憶しか残りません。

上手に動かずにじっとしていることが出来たら、声をかけて身体を撫でたり、直ぐにご褒美のおやつを与えるなど保定をされた後には楽しいことや嬉しいことがあるようにして下さい。

保定の方法

保定の方法に決まりはありません。

保定とは力任せに押さえることではありません。保定者はイヌの身体を自分にぴったりとくっつけて、ヒジや腕や脇を締めることにより上手くイヌの関節の自由を奪うことが保定のコツです。

イヌの大きさやご自分がやりやすい方法をいろいろ試して練習して下さい。

保定をする人は、リラックスして落ち着いて下さい。

保定をする時には、イヌの身体を強く押さえすぎて呼吸困難を起こしたり、体温の急上昇など のないように十分に気をつけて下さい。

保定には、四つ足で立った状態の立位、お座りした状態の犬座位や横になって寝ている状態での横臥位などがあります。

ここでは、狂犬病予防集団接種会場での一般的な立位と犬座位、抱っこをした状態での保定の仕方をご紹介します。

ポイント; イヌの状態を常に気にかけて万が一容態が悪くなった場合には、直ちに保定を外せるような方法を用いましょう。

保定を行う際の注意

- 1. イヌの首輪は指1本が入るくらいきつめにします。ドアや窓を閉めたりしてイヌが逃げ出したりしないように注意しましょう。リードは短めに持ちましょう。
- 2. 処置者(獣医師や看護士など)が噛みつかれないように、イヌが怪我をしたりしないように、保定者はイヌの口の位置やボディーランゲージにも十分に注意をしましょう。
- 3. 保定者は診察中や処置中に処置者に話しかけたり、保定動物をのぞき込むと処置者の邪魔になったり保定者が噛まれる危険があります。
- 4. イヌの興奮の程度や身体の変化、呼吸の変化や心拍数などにも注意しましょう。
- 5. 診察台やグルーミング台など高所へイヌを乗せた場合には、飛び降りたりして怪我を しないように気をつけましょう。
- 6. 爪をあらかじめ切っておくことで、ひっかき傷による怪我を防ぐことができます。
- 7. 飼い主は保定をする場合には落ち着きましょう。飼い主の不安な気持ちでイヌが興奮 することがあります。
- 8. 恐がりのイヌや噛みつく恐れのあるイヌの飼い主は、必ず申告をし攻撃性があるイヌ にはあらかじめ口輪をして連れて行きましょう。
- 9. イヌの左右どちら側からでも保定が出来るようになりましょう。

保定の種類



1. 四つ足で立った状態;(立位)

- イヌのアゴに片方の腕を下から回し、犬を自分の腕と胸に引き寄せます。イヌのアゴに腕を回した手で首輪を親指をかけて固定します。もう一方の手を犬のお腹の下にまわし、イヌを持ち上げ立たせます。イヌのアゴに回した腕のヒジを水平になるように上げると頭部が固定出来ます。
- 保定者の胸にイヌの体を引き寄せて、イヌとの隙間ができないようにします。頸に回した腕の脇は締めるようにします。

ポイント; 大型犬などでイヌが腰を落とす場合には2人で行う場合もあります。一人がイヌと対面した状態で前部(頭部)を押さえ、もう一人が後部(尻)を下から手を回して腰を持ち上げます。この方法は、噛む恐れのあるイヌには向きません。

2. お座りした状態;(犬座位)

- イヌのアゴに軽く下から腕を回しておき、もう片方の手でイヌの腰部を軽く押して、「お座り」させます。この際、股関節の後方を軽く前方へ押して「お座り」を促してもかまいません。
- イヌの頭部を抱きかかえるようにしてイヌのアゴに腕を回して首輪をつかみます。もう 一方の腕は、イヌの腰部に回しておきます。
- 保定者の胸にイヌの体を引き寄せて、イヌとの隙間ができないようにします。アゴに回した腕の脇は締めるようにします。

ポイント; アゴの下に回したヒジを上げると頭部が固定出来ます。この際、イヌが前足を動かし処置の妨げになるようであれば、前足を押さえます。

3. 口輪による保定

- 装着方法が誤っていたり、サイズが遭わないものや、手馴れてないものでは噛まれたりイヌが怪我をする危険があります。
- 普段から口輪の装着に慣らせておく必要があります。口輪を装着する際には、動物 の呼吸状態に十分注意をしてください。

ポイント; イヌの場合、ストレスや興奮から「はあ、はあ」という、あえぎ呼吸(パンティング)による体温調節が出来なくなります。特に、春から初秋までの高温多湿の環境や、パグやシーズなどの短頭種、興奮しやすい性格のイヌ、長毛種での使用はイヌの状態に十分な注意を払う必要があります。

4. 保定器具

噛みつかれない為のエリザベスカラーや動物の動きを制限するスライドケージなどがあります。

イヌの体高や大きさによる保定の仕方

超小型犬・・・チワワやダックスなど超小型犬の保定の仕方は、犬のアゴの下に親指と人差 し指を入れて頭部が動かないように保定します。その時に強く押さえて気管を押しつぶさな いように気を付けて下さい。嫌がって上に反り返る場合には、人差し指を軽く頭の上に添え て頭が上がらないようにして親指と中指でアゴを押さえます。

片方の手でイヌの身体を下から支えて自分の方に引きつけてヒジや脇を締めます。 小型犬の横抱き抱っこの保定をご参考下さい。

- 小型犬・・・抱っこをした状態での保定 (A4サイズ1枚)
- 中型犬・・・立位と犬座姿勢での保定 (A4サイズ1枚)
- 大型犬・・・立位と犬座姿勢での保定 (A4サイズ1枚)
- 保定の種類・・・抱っこ、立位、犬座位の保定 (A4サイズ1枚)

口輪の種類

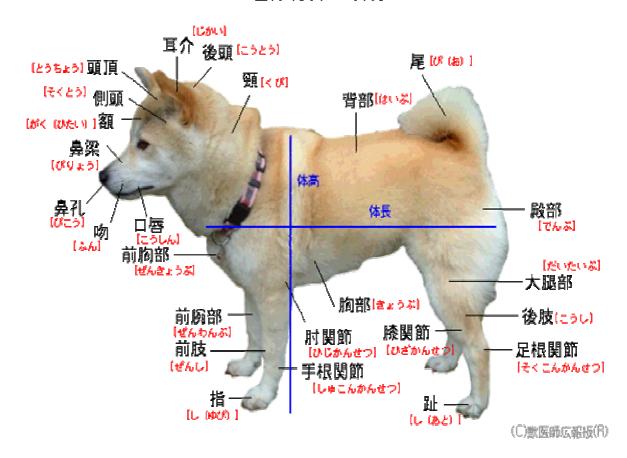
口輪には、ソフトタイプ(画像左右)と従来からあるハードタイプ(画像中)のものがあります。ネコや短頭種用(画像左)や柴犬などマズル(口吻)が出ている種用(画像右)など様々ですが、長時間の使用には向きません。飼い主の管理の下で正しくお使い下さい。







イヌの生体各部の名称



保定の仕方と種類

1. 飼い主に抱かれた状態:(抱っこ)



- 1. 抱っこに慣れたイヌに適しています。
- 2. イヌの頭を動かないように押さえて、脇を締めます。

片方の手でイヌの頭部を押さえ、ヒジでイヌの身体を保定者の身体にぴったりとくっつくように引きつけ脇を締めます。反対の手でイヌの腰部を持ち支えます。その時に、両後ろ足の間に人差し指を入れて、親指と残りの指で左右の足をしっかりと挟むように持つと安定します。

手首(手根部)や足首(足根部)に近い位置で保定した方 が動物は動きません。

小型犬モデル:パピヨン ライナちゃん(3歳・♀)

2. 四つ足で立った状態:(立位)



- 1. イヌの首輪をキツメにして首輪と一緒にほほを押さえるとイヌが暴れにくくなります。
- 2. 首輪がすっぽ抜けないよう首輪はキツメにします。

イヌと同じ方向を向いて、イヌを自分の両足の間にいれてまたがります。両手でイヌの首輪をつかんで頭部を固定します。両足はイヌの身体を挟んでください。イヌが腰を落とす時には、一人がイヌと対面になり頭部を押さえ、もう一人が腰を持ち上げ支えます。

大型犬モデル:ジャーマンシェパード ニコちゃん(5歳・♀)

3. お座りした状態;(犬座位)



- 1. 首に腕を回した脇をゆるめるとイヌの頭部が抜けるので脇を締めます。
- 2. 片方の手でイヌの身体を引き寄せると動きません。

イヌの首に下から腕を回し、イヌの頭部を抱きかかえるようにして回した手の親指に犬の首輪をかけて押さえます。 もう一方の腕は、イヌの腰部に回しておきます。保定者の胸にイヌの体を引き寄せて身体にくっつけ、イヌとの隙間ができないようにします。

中型犬モデル:ボーダーコリー シェリーちゃん(9歳・♀)

小型犬の保定

1. 縦抱きの場合は、片方の手でイヌの頭部を押さえ、腕とヒジでイヌの身体を保定者の身体にぴったりとくっつくように脇を締めます。反対の手でイヌの腰部をもち支えます。その時に、両後ろ足の間に人差し指を入れて、左右の後ろ足をしっかりと指で挟むように持つと安定します。



2. 横抱きの場合は、イヌの身体を手のひらと腕で支える形になります。 イヌの両前足の間に人差し指をいれて、左右の両前足をしっかりと挟むように持つと安定 します。腕は犬の腰のあたりで自分のからだにひきつけておきます。



ポイント; 両前足、両後ろ足の間に人差し指を入れて、左右の前足および後足をしっかりと保定する際に、手首(手根部)や足首(足根部)より近い位置で保定した方が動物は動きません。飼い主さんと身体がぴったりとくっつくことで犬は安心します。首輪は、いつもよりきつめの指が1本入るくらいが抜けにくいです。

小型犬モデル:パピヨン ライナちゃん(3歳・♀)

中型犬の保定

1. イヌの頭部を抱きかかえるようにしてイヌの首に腕を下から回します。 もう一方の腕は、イヌの腰部に回しておきます。保定者の胸にイヌの体を引き寄せてイヌと の隙間ができないようにします。首に回した腕の脇は締めるようにします。



2. イヌと同じ方向を向いて、イヌをまたいで自分の両足の間にいれます。 両手で首輪やイヌのほほをつかんで頭部を固定します。両足でイヌの肩を挟むと動きんで ください。



ポイント;イヌの首に軽く腕を回しておき、もう片方の手でイヌの腰部を軽く押して、「お座り」させます。この際、股関節の後方を軽く前方へ押して「お座り」を促してもかまいません。犬の首輪に親指をかけることで頭部が固定されやすくなります。

中型犬モデル:ボーダーコリー シェリーちゃん(9歳・♀)

大型犬の保定

1. 犬座位の場合は、両手でイヌの首輪を持ったり、ほほから耳を押さえる(頭部を抱きかかえる)ようにして保定者に引きつけて下さい。



2. 立位の場合は、イヌと同じ方向を向いて、イヌを自分の両足の間にいれます。両手でイヌの首輪やほほをつかんで頭部を固定します。両足でイヌの身体をしっかりと挟んでください。



ポイント; 首輪を押さえるので、首輪抜けしないようにきつめ(指1本が入るくらい。)に締めて下さい。特に、北方系の犬種(シェパード、ハスキー、秋田犬など)は、アンダーコート(下毛)が深いので、引きつけた時に首輪が抜けないように気を付けて下さい。イヌが腰を落とす場合には一人がイヌと対面になり前部(頭部)を押さえ、もう一人が後部(尻)を下から手を回して腰を持ち上げます。

大型犬モデル:ジャーマンシェパード ニコちゃん(5歳・♀)

狂犬病集合注射の心得

多くの犬にとって注射はうれしいものではありません。

自治体が実施する狂犬病予防の集合注射会場にはたくさんの犬が集まるため、不安や緊張から興奮して暴れ、よその犬と喧嘩をしたり人を噛んだり逃げ出したりすることがしばしばあります。そうならないよう、集合注射に参加する心得をまとめました。



《【登録と狂犬病予防注射】

- ●平成7年から犬の登録は生涯1回になりました。集合注射の会場では注射と同時に飼い犬の登録申請をすることができます。登録がまだの飼い主は登録をして鑑札の交付を受けてください。
- ●生後 91 日以上の犬には年1回の狂犬病予防注射接種が法律で義務付けられています。接種後、狂犬病予防注射済票の交付を受けてください。
- ●狂犬病予防注射の接種には、一般的に毎年春に地域の公民館等を会場として獣医師が出向いて実施する集合注射と、動物病院に連れていって接種する個別注射の2方法があります。ただし、病院によっては狂犬病予防注射の接種をしていないところもあり、また注射はしても登録や注射済票の交付手続きをしていない病院もあります。その場合は狂犬病予防注射済証(証明書)を病院から受け取って行政機関へ持参してください。



【注射予定日の前に】

- ●事前に配布された狂犬病予防注射の説明書をよく読み、注射の意義や目的および注射 前後の一般的な注意事項を理解しておいてください。
- ●注射予定日約1週間前から犬をよく観察して健康チェックをしておいてください。
- ●病犬や老犬、健康に不安のある犬は事前に動物病院で健康診断を受けることをおすすめします。
- ●冬生まれの仔犬はワクチン接種・狂犬病予防注射・フィラリア予防が同時期に重なります。副作用を出さないためには一定の接種間隔をあける必要がありますので事前にかかりつけ病院に相談をしてください。
- ●事前に配布された問診票に犬の健康状態を正しく記入してください。

「問診票 項目例」

- 飼い主さんの住所・氏名・電話番号
- 注射を受ける犬の名前・種類・性別・生年月日・毛色・体格(大型・中型・小型)
- 犬の食欲や元気が普通ではない(はい・いいえ)
- 下痢や吐き気、咳や呼吸の異常がある(はい・いいえ)
- 1年以内にてんかん発作等の健康上の問題があった(はい・いいえ)
- 犬が人を噛んで狂犬病鑑定がまだ済んでいない(はい・いいえ)
- 犬が発情中・妊娠中・授乳中である(はい・いいえ)
- 1ヶ月以内に他のワクチン注射を受けた(はい・いいえ)
- 生後3ヶ月以内である(はい・いいえ)



【集合注射の当日】

- ●必要書類・費用(つり銭のないように)・ウンチ袋を忘れずに持参してください。
- ●犬の性格や健康状態を把握していて、しっかりと犬をおさえられる人が会場に行ってください。
- ●安全のため、小さなお子さんの同行は避けてください。
- ●よその犬と喧嘩になったり人を噛んだり逃げたりしないよう犬をしっかり制御してください。力の強い犬や大型犬、緊張によって攻撃的になってしまう犬の場合はなるべく大人 2 名以上で行き、1 名が犬のリードをしっかり持ち、もう1 名が会計をすると安全でスムーズです。
- ●不安や緊張から攻撃的になってしまう犬には口輪を使用してください。
- ●首輪や胴輪がゆるすぎたりリードから離れて犬が脱走しないよう注意してください。長く伸びるリール式リードはストッパーをきちんとかけてください。
- ●係員の呼びかけや掲示されている案内に従い、集合注射の円滑な運営に協力してください。
- ●飼い主の緊張が犬に伝わると思わぬ事故の元になりますので、係員や獣医師に対し飼い主がリラックスして接している態度をとるようにしてください。



【注射を受ける前に】

- ●注射の前に獣医師による問診があります。正確に答えてください。
- ●獣医師によって注射不適当・要注意とされた犬は接種を猶予されたり免除されたりします。獣医師と相談し、健康に不安のある犬に無理に注射をすることは避けてください。



【注射の受け方】

- ●獣医師の指示の通りに犬を保定(しっかりおさえること)してください。首またはお尻に注射するのが基本ですが場合によってはその他の部位に注射します。注射の効果はどの部位でも変わりません。
- ●安全で確実な保定をするには犬の首と頭、胴体をしっかりおさえます。犬が頭を振ったり 胴体を反らしてもがいたりしないよう注意してください。
- ●保定に自信がないときは獣医師にそれを伝えてください。
- ●犬がじっとしていれば注射は一瞬で済みます。注射し終わったあとも犬が暴れないよう によく注意してください。
- ●飼い主自身が犬に咬まれないよう十分に気をつけてください。



【注射後の注意】

- ●極めて低いですが注射による副作用の危険性があります。注射後の犬の様子をよく観察してください。
- ●注射後3~4日間はなるべく安静にして、過激な運動・交配・入浴等は避けてください。
- ●他のワクチンを注射する場合は獣医師と相談の上、最低でも2週間以上の間隔をあけてください。
- ●注射後なんらかの異常が認められた場合はすみやかにかかりつけの動物病院に相談 してください。



【翌年の注射までの期間】

狂犬病予防注射の接種済み票や鑑札は常に犬が身につけていることが法律で定められています。

注射済み票や鑑札は首輪や胴輪に着けておくと迷子札にもなります。

外れて紛失しないようしっかりと着けてください。

注射済み票や鑑札を紛失した場合は再交付の手続き(有料)ができます。



【ふだんからしつけを】

犬が不安や緊張から興奮して暴れたりしないよう、ふだんから犬を制御できるようしつけをしておいて〈ださい。

抱っこできるサイズの犬は抱っこを嫌がらないように慣らしておくと注射のときの保定が 楽です。

注射のときにどうしても暴れてしまう犬には危険防止のため口輪の使用をおすすめします。 ふだんから口輪に慣らしておいてください。



【備考】

狂犬病予防注射は国の法律である狂犬病予防法によって実施されるものです。

この法律は、狂犬病の発生を予防し、その蔓延を防止し、およびこれを撲滅することにより、公衆衛生の向上および公共の福祉の増進を図ることを目的としています。

狂犬病はひとたび発生すれば多大な悲劇を生む恐ろしい病気です。

日本では長い期間に渡って狂犬病の発生を見ていませんが、今でも世界の国々では毎年 多〈の人が狂犬病で亡〈なっています。

狂犬病発生国から日本へこの病気に罹患した動物が入ってくることは考えられないことではありません。

狂犬病を防ぐことは公衆衛生の向上と公共の福祉の増進という本来の目的とともに、犬を 飼う人と飼われる犬自身の暮らしを守るという意味があります。

そのためにも年に1回必ず狂犬病予防注射を受けなければなりません。

円滑に注射を受けるためにこの心得を参考にしてください。

心得利用上の注意:このページを資料としてご利用されることに著作権上の制約を加えませんが、出典は獣医師 広報板であることはご明記ください。 (http://www.vets.ne.jp/faq/f_rabies001.html)

イヌの保定の仕方、集合注射に参加する心得

< 狂犬病予防集団接種の際に、飼い主がイヌを保定する為の参考例 >

獣医師広報板 作成

第1版 2005年9月30日

第2版 2005年10月5日

第3版 2005年10月15日

第4版 2007年3月21日

ホームページ http://www.vets.ne.jp

